

佐世保工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	工場実習
科目基礎情報					
科目番号	0089		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	手島 裕詞,嶋田 英樹				
到達目標					
1. 技術者・研究者の活動内容や求められる技術や能力等を把握することができる。(D4, E3) 2. 実習を通して、現在学んでいることの意義を説明することができる。(D4, E3) 3. 企業活動全体を俯瞰でき、求められている意識や倫理観を把握できる。(D4, E3) 4. 企業等での活動の経験や楽しさを説明することができる。(D4, E3) 5. 企業活動を経験することにより、自己の職業適性を考慮することができる。(D4, E3)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
技術者・研究者の活動内容や求められる技術や能力等を把握することができる。	十分にできる		ある程度できる		できない
実習を通して、現在学んでいることの意義を説明することができる。	十分にできる		ある程度できる		できない
企業活動全体を俯瞰でき、求められている意識や倫理観を把握できる。	十分にできる		ある程度できる		できない
企業等での活動の経験や楽しさを説明することができる。	十分にできる		ある程度できる		できない
企業活動を経験することにより、自己の職業適性を考慮することができる。	十分にできる		ある程度できる		できない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	企業等の現場において現実の課題に取り組むことにより実務能力を高める。職業意識の育成を図る。本科目は、企業で実務を担当している技術者や経営者との交流および企業研修を通じて、実社会で必要となる素養を身につける体験・実践形式の授業である。				
授業の進め方・方法	予備知識：専門基礎科目の理解を深めておく。 講義室：企業、工場など（校外） 授業形式：実技 学生が用意するもの：各企業指定のもの				
注意点	評価方法：(1) 受け入れ先からの実習評価（60点）、(2)工場実習報告書評価（20点）、(3)工場実習発表評価（20点）、の合計で評価する。60点以上を合格とする。 自己学習の指針：事前にインターンシップ先の企業について調査しておくこと。 オフィスアワー： ※到達目標の（）内の記号はJABEE学習・教育到達目標				
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
☒ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	実習内容の目的と注意点を理解することができる。	
		2週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	実習内容と現在学んでいることの意義や応用を説明できる。	
		3週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	技術者や研究者として必要とされている能力や知識を説明できる。	
		4週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	責任ある仕事を進めるための基本的な行動を把握できる。	
		5週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	実習先の企業の強みや成功例などを理解できる。	
		6週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	企業の社会的責任や抱える課題等を説明することができる。	
		7週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	企業活動における品質、コストなどの視点の重要性を理解できる。	
		8週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	企業間のつながりや関係性を認識できる。	
	2ndQ	9週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	社会活動において問題解決能力や人間性などの重要性を理解している。	
		10週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	実習を通じて得たことを学生生活に活かすことができる。	
		11週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	自己の適性を考慮しながら、将来設計に役立てることができる。	
		12週	実習会社での実習 (1週間以上、1日6時間×5日＝30時間)	社会人としての心構えを認識できる。	
		13週	実習報告資料作成（1）	実施した実習内容をまとめて報告書を作成できる。	

後期		14週	実習報告資料作成（２）	実施した実習内容をまとめて報告書を作成できる。
		15週	実習報告会	実習内容を説明することができる。
		16週	まとめ	まとめ
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合							
	企業からの評価	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	60	20	20	0	0	0	100